

問題

宇治拾遺物語「一条棧敷屋の鬼の事」

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

今は昔、一条の棧敷屋さじきやにある男とまりて傾城けいせいと臥ふしたりけるに、夜中ばかりに風吹き雨降りて①すさまじかりけるに、大路おほちに「諸行無常」と詠じて過ぐる者あり。何物ならんと思おもひて葎しとみを少し押し開けて見ければ、長は軒たけと等ひとしくて馬の頭なる鬼なりけり。おそろしさに葎しとみをかけて奥の方へB入りたれば、この鬼格子かうし押し開けて顔をCさし入れて、「②能く御覽よじつるな、御覽じつるな」と③申しければ、太刀を抜きて、入らば斬きらんと構へて女をばそばに置いてD待ちけるに、「④能く能く御覽ぜよ」と云ひてE去さにけり。百鬼夜行にてある遣やらんと恐ろしかりけり。それより一条の棧敷屋にはまたも⑤宿らざりけるとなん。

※傾城…遊女。 ※長…身の丈。身長。
 ※葎・格子…当時の建物に取り付けられた建具。格子の裏に板を張った戸が葎で、日光や雨風を防いだ。

(1) ~~~ A〜Eの主語を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 男
- イ 女(傾城)
- ウ 鬼

(2) ①の品詞分解として正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア すさまじかり／けるに
- イ すさまじかり／ける／に
- ウ すさまじ／かり／けるに
- エ すさまじ／かり／ける／に

(3) ②と④の訳として最も適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア しつかりご覽みなさい
- イ しつかりとご覽みになるな
- ウ よくもご覽みになったな
- エ よくもご覽みにならなかつたな

(4) ③は誰から誰に対する敬意を表しているか。「〜から…」という形で答えなさい。

(5) ⑤について、次の各問に答えなさい。

(a) 品詞分解として正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 宿ら／ざり／ける／と／なん
- イ 宿ら／ざり／ける／と／な／ん
- ウ 宿ら／ざり／ける／と／なん
- エ 宿ら／ざり／ける／と／な／ん

(b) 「なん」を文法的に説明しなさい。

(6) 「諸行無常」「百鬼夜行」の四字熟語としての意味を答えなさい。

解答	宇治拾遺物語「一条棧敷屋の鬼の事」
-----------	--------------------------

- (1) A ア B ア C ウ D ア E ウ
- (2) イ
- (3) ② ウ ④ ア
- (4) 作者(筆者)から男
- (5) (a) ア (b) 強意の係助詞

(6) 諸行無常…(例) この世に存在する全てのものは移り変わり、いずれは必ず滅びるということ。

百鬼夜行…(例) 悪人などがのさばって、わがもの顔にふるまうこと。